



音と絵で覚える漢字やことわざに、クイズ形式で挑戦する計算問題、ピアノの楽曲を聞きながら親しむ童謡……。1歳児から小学校低学年までの子供たちが遊び感覚で学べるコンテンツと工夫が、インターネットサイト「ネット楽習」のページにはあふれている。

「子供たち一人一人の成長段階に応じた幼児教育が、その子の人生を大きく左右する」。井上研一社長(59)の教育観に裏打ちされたサイトは、出版業界大手の「廣済堂」が運営するネット通信講座「学習天国」

## 命にしみこむ教育をしたい

に採用され、利用者を着実に増やしている。

昨年からは携帯電話のauとソフトバンクでも学習サイトを展開。月額105円(税込み)の気安さも手伝って、利用者の関心は大きく広がった。

## 企業 拝見

### ■ ネット楽習 ■

もとは電気関係の技術者だった井上社長。大学時代は工学を専攻し、就職後は電気系統の設計や製図に長く携わってきた。仕事は教育とは無関係だったが、子育てのときに巡り合った1冊の本に「目を開かされた」という。

ソニーの創業者の一人、井深大氏が著した「幼稚園では遅すぎる」。「人生は3歳までにつくられる」と説く同書で幼児教育の大切さを感じ

た井上社長は、他の教育書も手にしながら、実際の子育てに活用していた。

「爆発的に普及するインターネットを利用して、世界の教育革命が起きないか」。子供が手元を離れたあとも教育への情熱が冷めなかった井上社長に、21世紀を迎えたころからそんな思いがよぎるようになった。平成15年には、ついに会社を辞めて起業した。

「スキナ」ことを堪能するほどやりぬき」「永く永く喜ばれ、感謝されるように瞬時を活きます」との理念を掲げ、「ネットで配信する教材で、『命にしみこむ教育』をしたい」と、熱く夢を語る。

現在、日本語のほか中国語や韓国語、英語をネイティブの発音で学べるコンテンツも開発。利用者との興味をそらさない改良を日々加えながら、将来的には「偉人伝や伝記を配信したい」という。

吉田松陰や二宮尊徳、ヘレン・ケラーら、日本や世界の先人のすばらしさを伝え、「幼いころから大きな志をもってほしい」と願う。幼稚園や保育園などに出向く。出張授業の構想も温めるなど、幼児教育の挑戦はまだまた続く。



「楽習」サイトの制作現場で、将来の構想を語る井上研一社長

ネット楽習 平成15年7月に創業。資本金は1000万円で、松山市余戸東に事務所を構える。月額980円(税込み)でさまざまな学習講座を選択できるインターネット通信講座「学習天国」の「小学生の学習」コーナーから入会。携帯電話のサイトでは、はりの脳トレゲームも楽しめる。現在は井上研一社長が一人でサイトを毎日更新している。